



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

## 年度内に「つまずき」を克服！今できる取組を！

●●●H29 年度末から H30 年度当初までの流れ●●●

これまでの全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果に見られる経年的課題を中心に、次年度に向けて、つまずきを克服する取組を進め、子どもたち一人ひとりの学習内容の確かな理解と定着を図ることが重要です。

次年度当初に全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックが実施されます。子どもたちの学習状況を把握・分析し、見えてきた成果や課題を検証するとともに、授業改善や学習状況の改善等に役立てましょう。また、子どもたちの日々の頑張りが形として現れるよう、今、できることに取り組みましょう。

### ●●●各校での授業改善や学習状況の改善のための取組モデル●●●

3月

- みえの子どもたちの課題に対応したワークシートを配信  
「三重の学-Viva!!セット 第10弾」を各小中学校等に配付
- 各校の子どもたちの実態に応じたワークシートを活用した取組

子どもたちが自分の力で  
解けるヒントを掲載

Let's  
try!!

取組例

- ・年度末の授業 → 1年間の学習の定着状況や、年度初めの全国学調等に見られたつまずきの克服状況を把握し、できていないところをできるようにしましょう。  
→ 問題を解くペースをつかませるために、全国学調と同じ時間配分で実施しましょう。
- ・放課後等の補充学習 → 個の課題に応じた指導を行い、確実な学習内容の定着につなげましょう。
- ・日々の家庭学習 → ヒントがあることから、自力で取り組みます。「わかった」「できた」という達成感を持たせましょう。
- ・春休みの課題 → 学習時間の確保により、自主的・計画的な学習につなげましょう。

各学年での  
取組の目的

- ・小6・中3：卒業までに身につけるべき力を確実に定着させる。
- ・小5・中2：最高学年での学びにつながるよう、学力の定着状況を把握し、課題を克服させる。
- ・小1～4・中1：次年度につながるよう、系統的に学力を積み上げていく。

4月上旬

#### 学力向上通信「三重の学-Viva!!」4月号

- ◆ 平成30年度全国学力・学習状況調査の実施にあたって 等

4月10日

#### 公立小中学校等校長研修会

- ◆ 小中学校等において多様化する今日的な課題への的確な対応、円滑な学校運営の推進に向けて

4月17日

#### 平成30年度全国学力・学習状況調査 & 平成30年度第1回みえスタディ・チェック

- ◆ 対象学年：小学校第6学年・中学校第3学年
- ◆ 実施教科：国語・算数・数学・理科

- ◆ 対象学年：小学校第4学年・第5学年
- ◆ 実施教科：国語・算数・理科

★ 調査実施後、文部科学省へ送付する前に  
解答用紙をコピー  
(取り扱いに十分ご注意ください)

- ◆ 対象学年：中学校第1学年・第2学年
- ◆ 実施教科：国語・数学・理科

授業改善サイクル支援ネットへの自校採点結果の入力

→ リアルタイムに設問ごとの定着状況を把握し、早期からの授業改善に活用

4月23日

24日(予定)

#### 全国学力・学習状況調査自校採点研修会

- ◆ 「自校採点 → 分析 → 改善」に結びつける。

解答類型に分けることで、  
子どもの課題を把握

4月下旬以降

- ◆ 自校採点の結果分析から見えてきた課題をふまえ、早期からの授業改善の方策について全教員で協議し、共通認識を図る。

## 志摩市立神明小学校の取組

国の事業「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究」の指定を受けて、次のような取組を行いました。

### TT 指導（４・５年生 算数）

○ TT（チーム・ティーチング）の教員と、学習支援サポーターの３名体制で行っています。

→ 組織的、効率的な体制づくりは、より効果的な学習指導につながっていきます。

**担任（T1）**  
・主に授業を進める

**少人数加配（T2）**  
・児童の学習状況の把握・共有（個に応じた指導）  
・授業を進める

**学習支援サポーター**  
・児童の学習状況の把握・共有

・家庭学習の見届け → T2と学習支援サポーター  
児童のつまずきの把握・共有 → T1

・机間指導担当を決めておく  
→ 児童の様子により細かな把握  
→ 個に応じた指導

・T2が授業を進める  
→ T1の児童の様子により細かな把握  
→ 個に応じた指導、指導の充実

### 「めあて」と「振り返り」

児童が全ての授業で「めあて」と「振り返り」が意識できるように掲示を行っています。学校の実態に応じ、また学年の発達段階に応じ、全校で統一して行うこと、子どもたちに「何のためにするのか」を理解させた上で行うことが大切です。

#### ● 教室に掲示されています！ ●

ふりかえりはめあてと比べて  
**何が**  
わかった(わからなかった)  
できた(できなかった)  
考えた(考えられなかった)  
これで書こう！！

#### ～伝え方のヒント～

- ・～するために、
- ・まず、次に、それから
- ・そして、最後に
- ・だから ※たとえば

#### ～考え方のヒント～

- ・できるだけかんたんな方法
- ・数直線をつかう
- ・図をつかう

これで書こう！！

### 補充的な学習、発展的な学習

#### 1. 補充的な学習

- ・朝の学習を週2回から3回に！！
- ・全学年で2学年前からの既習事項の学び直しや反復練習を行う等の補充的な学習を実施

#### 2. 家庭での学習習慣の定着

- ・「**学年×10+10分**」という時間を目安にした宿題
- ・宿題は、次の日に確実に提出することを目標とし、児童が提出した宿題の内容に間違いがある場合は、必ず直しを行うよう徹底して指導
- ・高学年では、予習や復習、自主学習のやり方を紹介し、自分で課題を見つけて学習する取組も実施

#### 3. 発展的な学習

- ・全国学調に対応して作成したワークシート集「**三重の学-Viva!!セット**」を活用

#### 4. 教職員の取組

- ・全国学調、みえスタディ・チェックの採点を全教職員で実施し、児童の実態を学校全体で共有
- ・児童の実態から見られる、自校の強み、弱みについて校内研修で交流し、**成果と課題を把握**

#### 【学習に向かう教室づくり】

児童が日常的に復習できるよう、「学習した内容」や「授業で使用した提示物」などを教室に掲示しています。

## 松阪市立第五小学校の取組

「わかる授業」促進事業の実践推進校として2年間の指定を受け、算数で習熟度別少人数指導を行っています。第五小の習熟度別コース編成の方法を紹介します。

### 4つの学習集団

○ 「松阪市標準学力調査」の結果を基礎資料とし、児童の実態に応じて、5年生の3クラスを**4つの学習集団（コース）**に分けます。

→ 教員が児童の学習の定着状況を把握しやすくなり、**指導の充実**とともに、**個に応じた指導**ができます。

→ 4つの学習集団（コース）を基本としますが、児童の実態に合わせて弾力的にコース設定を行います。

### コース選択

○ 単元ごとにコースを選択します。

→ **レディネステスト**の結果をふまえ、児童は希望のコースを選択します。

→ 教員は、今回の学習単元がその児童の苦手とする学習分野であるかどうか等を判断した上で、希望コース以外のコースでの学習を提案します。

児童はコース選択を重ねるごとに、自分の学習の定着状況を把握し、適切なコース選択ができるようになってきています。

#### 算数アンケートの結果

90%以上が

「**自分が選んだコースでよかった**」と回答

### レディネステストとコース別テスト

○ 単元で「**どんな力を身につけさせたいか**」を明らかにし、レディネステストを作成します。

→ 必ず一問は、「考え方を説明しましょう」という問題とし、**思考力・表現力**がどの程度身についているのかを判断します。

○ コース別テストについては、単元末テストと一緒に実施しています。

→ 発展コースでは、考え方を記述させる問題を取り入れ、授業中に培った表現力や判断力がどの程度身についているのかを把握し、次の単元の指導に反映するようにしています。



## \* プログラミング教育の普及推進に取り組んでいます \*

新学習指導要領では、「児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施する」と示されています。

そこで県教育委員会では本年度、「プログラミング指導者（メンター）育成研修」を県内 35 名の受講者を対象に計 6 回実施するとともに、県内の小学校 3 校（南伊勢町立南勢小学校、伊勢市立厚生小学校、亀山市立神辺小学校）と連携してプログラミング講座を開催することで、プログラミング教育の普及推進を図りました。



### プログラミング講座

ロボットやソフトウェアを活用したプログラミングの体験を通して、児童に論理的思考力を育成するための講座を開催しました。また参加した教員が効果的な指導方法等について話し合いました。

#### 南伊勢町立南勢小学校〔12月11日 他〕



##### いもむし型ロボットを活用したプログラミング講座

「直進する」・「右に曲がる」等のパーツを組み合わせさせて動きをつくるロボットに、コーンをまわって戻る動きをさせるよう、グループで考えました。

#### 亀山市立神辺小学校〔11月5日〕



##### プログラミングアプリを活用したプログラミング講座

図を描く等のミッションをクリアするために、2人組で相談しながら画面上的キャラクターを動かすプログラムを考えました。

#### 伊勢市立厚生小学校〔10月13日 他〕



##### 車型ロボットを活用したプログラミング講座

車型ロボットが、1m進んで止まる、四角形に動いて元の位置に戻るといったプログラムを、3人組で試行錯誤をしながら考えました。

##### 〔参加児童の感想〕

- ・難しい時には友だちと話し合っていると、工夫すると、失敗が成功につながりました。
- ・わからない時にどうすればよいか、しっかり考えたら課題をクリアできたのですごくうれしかったです。

##### 〔参加した教員の声〕

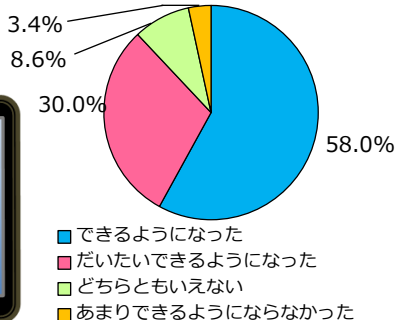
- ・児童の学びを保障するために、できるだけ指示を少なくすることが大切だとわかりました。
- ・課題解決に向けた対話をしやすいよう、少人数グループでの活動がよいことが理解できました。

### アンケート結果より

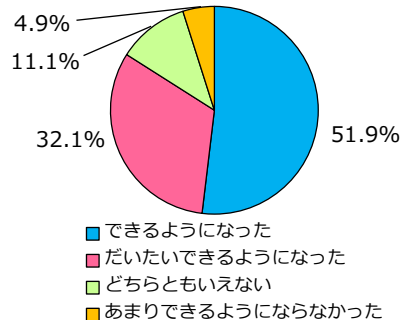
Q. プログラム体験は楽しかったですか。



Q. 友だちと協力して、作業を進められるようになりましたか。



Q. うまく動かないときは、考えて解決策を試すようになりましたか。



児童の与えられた課題に繰り返し取り組む姿や友だちと相談して解決していこうとする姿がみられました。プログラムが動かない時にどうすればよいかを意欲的に考え、試行錯誤をして問題解決を図ろうとしていました。プログラミングの体験は、楽しみながら論理的思考力や問題解決力、コミュニケーション力を育成することにつながります。

このように、プログラミング教育は新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」となり、学習で培われた論理的思考力が他の教科に生かされ、学力向上が期待されます。

### ●●●●●●●●●●小学校での実施に向けて●●●●●●●●●●

プログラミング教育を「どの学年の、どの教科の、どの単元に位置づけて実施していくか」を考えることはとても大切なことです。カリキュラム・マネジメントの視点を持って、学校全体で位置づけを確認していくことが求められます。

そこで、まずは校内研修等でプログラミング教育の理解を深めることから進めていきましょう。

本年度、プログラミング教育の講義や演習の様子を収録した、ネット DE 研修を新たに作成しました。

ぜひ、ご活用ください！

ネット DE 研修 「プログラミング教育 -入門編-」

プログラミング教育の本格実施に向けて、準備を進めていきましょう

